

### 1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4091800070
法人名	社会福祉法人 全和会
事業所名	グループホーム 鯉田
所在地 (電話番号)	福岡県飯塚市鯉田柳ヶ谷1522-1 (電話) 0948-28-0032

評価機関名	株式会社アーバン・マトリックス		
所在地	北九州市小倉北区紺屋町4-6 北九州ビル8階		
訪問調査日	平成21年2月28日	評価確定日	平成21年4月4日

【情報提供票より】(平成20年2月20日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成19年6月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤 8人, 非常勤 1人, 常勤換算	7.3人

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋造り
	1階建ての1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000円	その他の経費(月額)	(水道光熱費)20,000円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(200,000円)	有りの場合 償却の有無	有(5年間)	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
または1日当たり 960円				

(4) 利用者の概要(2月20日現在)

利用者人数	9名	男性	2名	女性	7名
要介護1	1名	要介護2		1名	
要介護3	3名	要介護4		4名	
要介護5	0名	要支援2		0名	
年齢	平均 84歳	最低	70歳	最高	93歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	広瀬医院 / アイ歯科医院
---------	---------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホーム鯉田は飯塚市の郊外の閑静な住宅地の一角に位置している。ホームの庭には菜園があり、屋内は天井が高く吹き抜けになっており、明るく開放的な雰囲気になっている。建物はバリアフリー仕様になっており、歩行器や車椅子でも移動が支障ないようにしている。開設して2年近く、町内会の会員として地域に密着したホームとなっている。創立以来、現場で入居者と共に過ごしてきた職員がこの度管理者となっている。創立から更にステップアップした理念のもと、職員も入居者同様明るく楽しく、笑顔の絶えない職場づくりを心がけている。職員も自分の個性を活かし、あるがままの入居者と自然にさり気なく支えあっているグループホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	理念を新たに作成し、入居者も職員も共に笑顔で地域に根ざしたホームを目指している。自治会に加入し、地域との連携がより密着となった。玄関の施錠やホーム独自のアセスメント表の検討など積極的に課題解決に取り組んでいる。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	外部評価の結果を職員に配布している。不明な箇所については個人的に説明し評価を実施する意義を理解できるよう働きかけた。自己評価の内容については各職員によりチェックを行い、今後のサービスの向上と改善に努めている。
重点項目	運営推進会議の主な検討内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	定期的に2ヶ月ごとに運営推進会議を開催し、地域の自治会長・民生委員・家族の代表者に参加していただき、行事報告や入居者・職員の状況説明の他、地域の役に立つことがあるかなど意見交換を行っている。特に地域の方からは非常時の協力や水害時など地域の方の避難場所としての提供を求められている。また、地域の方からは特に国道が近いこと、防犯についてアドバイスをいただき実行している。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	多くの家族は週1回面会に来られており、入居者の健康状態についての報告や金銭管理の説明を行っている。その際、家族の要望の聞き取りを行っており、面会に見える家族に対し、気軽にご意見を伺えるように雰囲気や環境づくりに努めている。「寒そうなので寝具の工夫を」との意見があった時は暖房の是非についてホームとしての意見を率直に述べるなど話し合っている。家族からの意見は常時、職員会議で検討し運営に反映していくように努めている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	最近、町内会に加入している。加入の際、グループホームの役割や特徴を説明し、地域と協働体制にあることを理解していただいた。地域の空き缶拾いに協力したり、盆踊りなどの地域行事に参加したり地域との交流を高めている。ホームの行事などで不在の場合は、地域に見回りをお願いしたり、また、台風や水害の際はホームが安全のため、地域住民の避難に利用できるようにしていたきたいという提案をいただいている。その他、地域の住民と挨拶を交わしたり、ホームの行事で作成した物品を地域に配るなど地域にとけ込むように努めている。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念	創立より2年近く経過した時点で新たに「利用者、スタッフ地域の一員としてそれぞれの交流を深めながら共に支え合っていく」を理念に掲げ、地域の中で共に生活していく視点を打ち出している。また、その人らしさを大切に入居者・職員共に明るく楽しい笑顔の絶えない職場とうたっている。		
		地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている			
2	2	理念の共有と日々の取り組み	新たな理念を各職員の意見を聞いて取りまとめ、玄関入り口や台所など職員が集まる場所に掲げ、各職員への理念の理解を育んでいる。		
		管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる			
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい	最近 町内会に加入している。加入の際、グループホームの役割や特徴を説明し、地域と協力体制にあることを理解していただいた。地域の空き缶拾いに協力したり、盆踊りなどの地域行事に参加したり、地域との交流を高めている。ホームの行事などで不在の場合は、地域に見回りをお願いしたり、また、台風や水害の際はホーム安全のため、地域住民の避難に利用できるようにしていただきたいという提案をいただいている。		
		事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている			
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用	外部評価の結果を職員に配布して見てもらっている。不明な箇所については個人的に説明し評価を実施する意義を理解できるよう働きかけた。自己評価の内容について各職員によりチェックが行われ、今後のサービス向上と改善に努めている。どの職員も面談時に短時間ながらも業務に取り組む考えを自分の言葉で熱心に語られていた。この評価の意義をよく理解されていた。		
		運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる			
5	8	運営推進会議を活かした取り組み	定期的に2ヶ月ごとに運営推進会議を開催し、行事報告や入居者・職員の状況説明の他、地域に役に立つことがあるかなど意見交換を行っている。特に非常時の協力や水害時など地域の方の避難場所としての提供を求められている。地域の方からは特に国道が近いため、防犯についてアドバイスをいただき実行している。		
		運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携	グループホームの運営にあたっては、法令の解釈や不明なことは、常に市担当者に聞くようにしている。ヒヤリ・ハットを含め些細な事故でも窓口に報告している。また、市の介護相談員が月1回、2時間程度、訪問があり、行政との連携を高めている。		
		事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる			
7	10	権利擁護に関する制度の理解と活用	入居者に権利擁護を利用されている方が1名おられる。職員全員で支援できるように権利擁護や成年後見制度に関する制度について、これから勉強会で制度の理解を高めていきたいと考えている。		
		管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人には、それらを活用できるよう支援している。			
4. 理念を実践するための体制					
8	14	家族等への報告	開設以来、ほとんどの家族が週に1回面会に来られており、入居者の健康状態や金銭管理の説明を行っている。遠方の家族については電話や書面で定期的に報告をしている。		
		事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている			
9	15	運営に関する家族等意見の反映	多くの家族は週1回面会に来られており、入居者の健康状態についての報告や金銭管理の説明を行っている。その際、家族の要望の聞き取りを行っており、面会に見える家族に対し、気軽にご意見を伺えるように雰囲気や環境づくりに努めている。家族からの意見は常時、職員会議で検討し運営に反映していくように努めている。		
		家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている			
10	18	職員の異動等による影響への配慮	離職については、職員と話し合いを行い最小限に抑えるように努力している。法人内の異動で職員配置がある場合は、当ホームに適任の職員をお願いしている。また、勤務を重複して業務につくなど、入居者へのダメージを抑えている。最近1年間近くは職員の異動はない。		
		運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている			
5. 人材の育成と支援					
11	19	人権の尊重	採用にあたっては、年齢・性別を問わず、福祉の職員としてふさわしい人柄を重視している。法人も複数のグループホーム及び福祉事業を展開しているので能力・特技を発揮できるように人事配置を行っている。		
		法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している。			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
12	20	人権教育・啓発活動	虐待防止・身体拘束など集団指導で受講した内容を職員会議で話し合い、現場での教育・啓発を重視しているが、今後は外部研修の情報を把握するなど研修の実施を期待したい。		
		法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育・啓発活動に取り組んでいる。			
13	21	職員を育てる取り組み	毎日の業務の中で職員のスキルアップを図っており、現場を重視した働きながらのトレーニングを進めている。		現場での学習が一番効果的であるが、職員会議・ケース検討会議、また、日々の記録で管理者・先輩が職員の発言や記録内容を評価し、教育的に関わることが重要である。また、年に1回は外部研修を受けるなど、年間目標を皆で立てることを期待したい。
		運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている			
14	22	同業者との交流を通じた向上	法人内にグループホームが3ヶ所あり、お互いに交流を高めている。また、地域の福祉祭りに参加しており、他の福祉施設と交流する機会を設けている。		グループホームの質の確保のためには同業者との交流や連携が重要で、幸い同法人内のグループホームとの連携は活発である。今後は、他法人とのグループホームとの交流ができることを期待したい。
		運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている			
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
2. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	馴染みながらのサービス利用	入居前は在宅で生活されていた入居者が多いため、施設見学や体験入居を行ったり、面談時に趣味を確認するなど、入居者がグループホームでの生活になじみ適応できるように支援している。その際、家族ともできるだけ面談し情報を得ている。		
		本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している			
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	本人と共に過ごし支えあう関係	年長者として、自分たちの先輩であることを念頭におき、その人らしさを大切に尊厳を持って接し、話をよく聞き、目配り・気配り・心配りを行っている。入居者の行動や言葉から「そうなんだ」と合点することや学ぶことが多い。味付けや味見なども伺いながら調理をしている。		
		職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1.一人ひとりの把握					
17	35	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>対話や日々の介護の中の気づきにより、入居者の希望や意向を把握するようにしている。アセスメントとして他機関からの情報提供紙を利用してあったが、最近独自のアセスメント用紙を使用され、情報の把握に努め、一人ひとりの入居者に応じた支援を行っている。</p>		
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>入居者・家族の要望を伺い、担当職員の意見を取り入れ、話し合いを行い作成している。わかりやすい言葉で、直ぐ行動に移せるように具体的に書かれている。週間予定表も個性あるものになっている。更に個性を打ち出すためにアセスメントの分析や家族の意向を反映していくことを期待したい。</p>		
19	39	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>毎月ミーティングで検討会議を行っている。また、機関に応じて計画の見直しを行っている。体調や健康面、その他状況の変化に応じて計画の修正を行っている。更に入居者の担当職員の適切な情報など細やかな連携を期待したい。</p>		
3.多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
20	41	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>同法人内に3つのグループホームがあり、夏祭りなど合同行事の企画を立て、交流の機会をつくっている。また、入居者の思いや要望にそって外出支援を行っている。例えば神社に行くことを希望された場合は、何処の神社かわからないが、まずはドライブを試みる・行きつけの美容院にお連れする・家族と食事に行っていたなど柔軟に支援している。</p>		
4.本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
21	45	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>定期的に内科の医師の往診がある。体温表に健康チェックの項目が分かりやすいように体温表に記載し往診時に医師に情報提供している。その他、本人・家族の希望を重視し、希望するかかりつけ医との連携も図っている。管理者も看護師であり、指示や注意事項を職員に伝えている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
22	49	重度化や終末期に向けた方針の共有	契約時に「医療上及び緊急時の対応」でホームの方針を説明している。重度化し、医療行為が必要な状態になると入院することが多いため、グループホーム内で終末期を迎えることはないが、早い段階から家族と相談し家族の納得を得るようにしている。		
		重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している			
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	52	プライバシーの確保の徹底	個人の誇りやプライバシーを大事にし、特に言葉づかいには充分注意を払っている。申し送りの際、入居者名をアルファベット(イニシャル)で伝えるなどプライバシーには注意を払っている。言葉づかいは丁寧語を用い、柔らかい調子で話すように気をつけている。個人情報、事務所で保管・管理している。申し送りも他の入居者に聞こえないように場所を考え、プライバシーに配慮した対応に努めている。		
		一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない			
24	54	日々のその人らしい暮らし	1日の流れの中で全員に声かけを行い、ラジオ体操・口腔体操・レクリエーションなどを行っている。参加・不参加は入居者の意向を尊重している。お菓子を買に行く入居者も制限してしない。ただ過食にならないように注意している。		
		職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している			
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	食事を楽しむことのできる支援	ホームの畑でできた野菜を入居者で下ごしらえしたり、対面式の調理場の出窓にもたれ、食事が出来上がるのを楽しそうに眺めている人もおられる。おしぼりを作ったり、茶碗を拭いたり、職員と共に準備や片づけをされていた。献立は入居者に食べたい物を聞き、職員が献立を考えている。食事の内容は塩分を控えめにし、似たようなメニューが続かないように工夫している。		
		食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている			
26	59	入浴を楽しむことができる支援	1日におきに入浴を行っており、入居者の希望を確認してタイミングに合わせて支援している。この度、温度差がなく快適に入浴できるように脱衣所・浴室に暖房器を取り付け好評である。		
		曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	入居者の能力に応じて、後片づけやお盆拭き・おしぼりたたみや洗濯物たたみ・台拭きやテーブル拭きなどを行っている。また、歌や踊りなど、入居者の好みに合った気晴らしを行っている。敷地内の家庭菜園も入居者の楽しみになっている。		
		張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている			
28	63	日常的な外出支援	入居者の希望に応じて、20分程度の散歩をしたり、スーパーなどへ食材の買い物に出かけたりしている。また、ドライブに出かけたり、観劇やカラオケなどの行事も企画し外出を楽しみにしていただけるよう取り組んでいる。敷地内に家庭菜園があるため、庭にも出られるようになっている。		
		事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している			
(4)安心と安全を支える支援					
29	68	鍵をかけないケアの実践	玄関前が国道に面しているため、入浴介助で職員が手薄の時は施錠する場合もあるが、基本的に日中は玄関の施錠はしないようにしている。帰宅欲求のある入居者はいるが、鍵を極力かけないように取り組んでいる。また、部屋を間違え入居者がいるが、居室入口に入居者の顔写真を貼り、入居者が部屋を間違えないように工夫している。		
		運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる			
30	73	災害対策	年1回消防署立会いのもと、避難訓練を実施している。今回は1人体制の夜間を想定し、実際に建物の外まで入居者を避難させた。運営推進会議の際に自治会長へ避難誘導の協力をお願いしている。また、台風や水害の際はホームの方が安全のため、地域住民の避難に利用できるようなしていただきたいという提案もいただいている。		
		火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている			
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	栄養摂取や水分確保の支援	食事は塩分控えめを心がけている。水分摂取量は2000ccを目安にしており、入居者のその日の摂取量をホワイトボードに記入し、他の職員と情報を共有している。また、健康管理表に食事や水分・血圧・脈拍などの記録が一目でわかるように工夫されている。		
		食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	居心地のよい共用空間づくり	建物はバリアフリー仕様になっており、歩行器や車椅子でも移動に支障がないようになっている。また、童謡が静かに流れており、入居者が落ち着いてくつろげるように工夫されている。飾りつけも毎月変えており、季節感が出るように意匠を凝らし、家庭的な雰囲気を大切にしている空間になっている。		
		共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている			
33	85	居心地よく過ごせる居室の配慮	居室は収納を広く取り、入居者が室内移動の際に、躓いたり転倒したりする危険がないように工夫している。また、全ての居室の入口が建物の中央から見渡せるようになっており、入居者に異常がないかを早期に発見しやすい空間となっている。家族の面会が多いので、花やスナップ写真を貼るなど、その人らしい個性ある空間づくりの工夫を更に期待したい。		
		居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている			